



平成 28 年 12 月 16 日

人・地域・地球に優しいアクセスのための ファジアーノプロジェクトを始動

岡山大学は、国土交通省中国地方整備局岡山国道事務所、株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブと今年7月、「人・地域・地球に優しいアクセスのためのファジアーノプロジェクト実行委員会」を発足させました。

この産官学の取り組みは、サッカーJ2「ファジアーノ岡山」の試合観戦者によるスタジアムまでのアクセスを、自動車利用から、公共交通・自転車・徒歩等に転換してもらう方法を検討するためのものです。2018年度までの3年間を予定しており、岡山県総合グラウンド周辺の渋滞緩和や駐車場問題の解消に加えて、地元経済の活性化や健康増進、環境負荷の低減等、スポーツ観戦に新たな価値を付与することを目指しています。

本プロジェクトの一環として今年9～10月、本学大学院環境生命科学研究科の氏原岳人准教授らの研究グループは観戦者調査や交通状況調査等を行いました。

<概要>

岡山県総合グラウンド周辺の国道53号線は、慢性的な交通渋滞に悩まされています。加えて、集客力のある県総合グラウンドのイベント利用時には、賑わいが創出される一方で、渋滞の要因の一つとも考えられています。

その中で、今シーズン平均1万人を達成した集客力の大きいJリーグ・ファジアーノ岡山の試合観戦を、一つの事例として取り上げ、それらの問題解決のために、本学、国土交通省中国地方整備局岡山国道事務所、株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブからなる「人・地域・地球に優しいアクセスのためのファジアーノプロジェクト実行委員会（委員長：氏原准教授）」を発足させました。大学と国とプロサッカーチームが共同で試合観戦の際のアクセス方法を検討するプロジェクトは、全国的にも極めて珍しいです。

本プロジェクトは、人や地域、地球に優しいスポーツ観戦形態の実現に向けて、ファジアーノ岡山の試合観戦者が岡山県総合グラウンドを訪れる際、従来の自動車利用から公共交通・自転車・徒歩等に自発的に転換してもらう方法を開発することを目指しています。実行委員会で具体的な方法を検討し、来シーズンより実践していく予定です。

本学からは、氏原准教授のほか、大学院教育学研究科の高岡敦史講師らが本プロジェクトに参加。氏原准教授らの研究グループでは今年9～10月、観戦者のアクセス方法等に関する調査や岡山県総合グラウンド周辺の交通状況の調査を実施しました。本調査結果は、アクセス方法の転換に向けたプログラムを開発するための基礎データ、プログラム実施後の比較検証データとして活用します。



PRESS RELEASE

<期待される成果>

岡山県総合グラウンド周辺の渋滞緩和や駐車場問題の解消に加えて、地元消費の増加や健康増進、環境負荷の低減等、スポーツ観戦に新たな価値を付与することを目指しています。

<その他>

本取り組みは、本学と中国地方整備局との包括的連携・協力に関する協定書に基づき実施されています。

<お問い合わせ>

岡山大学大学院環境生命科学研究科
(廃棄物マネジメント研究センター)
准教授 氏原 岳人
(電話番号) 086-251-8850
(FAX番号) 086-251-8850